

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																												
専門学校 トヨタ神戸自動車大学校	平成4年9月16日	大塚生介	〒651-2102 神戸市西区学園東町4丁目1番地 (電話) 078-796-2121																												
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																												
学校法人 トヨタ神戸整備学園	平成4年9月16日	理事長 横山裕行	〒651-2102 神戸市西区学園東町4丁目1番地 (電話) 078-796-2121																												
分野	認定課程名	認定学科名		専門士	高度専門士																										
工業	工業専門課程	高度自動車科		-	平成20年2月29日文科科学省 告示第16号																										
学科の目的	21世紀の業界を背負って立つ人材の育成 業界の中核として将来は管理職、経営者の輩出																														
認定年月日	平成27年2月17日																														
修業年限	昼夜	講義		演習	実習	実験	実技																								
4年	昼間	4870単位時間		1465単位時間	720単位時間	2685単位時間	— 時間	— 時間																							
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																										
400人	317人	3人	18人	32人	50人																										
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日		成績評価		■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 科目毎に履修判定試験を行い、60点以上を合格とする 但し、1年次及び2年次は、70点以上とする また評定基準は次のとおりとする 優 評価: 100～80点 良 評価: 79～70点 可 評価: 69～60点 不可 評価: 履修試験不合格																										
長期休み	■学年始:4月1日 ■夏季:7月25日～8月19日 ■冬季:12月21日～1月6日 ■学年末:3月31日		卒業・進級条件		◆進級 各学年毎に、定められた全科目の修得試験に合格しており、各学年における補講を含めない正規授業への出席率は、80%以上であること																										
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 個別面談、電話・メール連絡 自宅訪問、保護者連携		課外活動		■課外活動の種類 スーパーGTメカニック体験、米国NASCAR研修、レース観戦 ■サークル活動: 有																										
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(2018年度卒業生) 自動車販売会社、自動車整備工場、自動車メーカー、評価会社 ■就職指導内容 挨拶・身だしなみ、職業理解講座、会社訪問、個別面談、履歴書添削、面接指導 ■卒業者数: 66 人 ■就職希望者数: 66 人 ■就職者数: 66 人 ■就職率: 100 % ■卒業者に占める就職者の割合: 100 % ■その他 (2018年度卒業者に関する2019年5月1日時点の情報)		主な学修成果(資格・検定等)※3		■国家資格・検定/その他・民間検定等 (2018年度卒業者に関する2019年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一級小型自動車整備士</td> <td>②</td> <td>66人</td> <td>59人</td> </tr> <tr> <td>二級ガソリン自動車整備士</td> <td>②</td> <td>66人</td> <td>66人</td> </tr> <tr> <td>二級ジーゼル自動車整備士</td> <td>②</td> <td>66人</td> <td>66人</td> </tr> <tr> <td>低圧電気取扱安全衛生教育</td> <td>③</td> <td>66人</td> <td>66人</td> </tr> <tr> <td>トヨタサービス技術検定2級</td> <td>③</td> <td>66人</td> <td>66人</td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄			資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	一級小型自動車整備士	②	66人	59人	二級ガソリン自動車整備士	②	66人	66人	二級ジーゼル自動車整備士	②	66人	66人	低圧電気取扱安全衛生教育	③	66人	66人	トヨタサービス技術検定2級	③	66人	66人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																												
一級小型自動車整備士	②	66人	59人																												
二級ガソリン自動車整備士	②	66人	66人																												
二級ジーゼル自動車整備士	②	66人	66人																												
低圧電気取扱安全衛生教育	③	66人	66人																												
トヨタサービス技術検定2級	③	66人	66人																												
中途退学の現状	■中途退学者 4 名 2018年4月1日時点において、在学者287名(2018年4月入学者を含む) 2019年3月31日時点において、在学者283名(2019年3月卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 学業不振、進路変更、体調不良、経済的理由等 ■中退防止・中退者支援のための取組 学業不振者への個別指導、担任制、保護者連絡及び連携、学生相談室(カウンセラー)		中退率		1.4 %																										
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※有の場合、制度内容を記入 ①成績優秀生奨学金(2019年度生)(授業料減免25万円×4年間) ②九州沖縄帰省費支援(1万円×3回×2年間) ■専門実践教育訓練給付: 給付対象 [2018年度実績 なし] ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																														
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受賞年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																														
当該学科のホームページURL	URL: http://www.toyota-kobe.ac.jp																														

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

自動車整備業界に関し知見を有する団体(兵庫県自動車整備振興会等)、及び主な就職先であるトヨタ販売会社の役員を含む「教育課程編成委員会」を設置して①就職先企業等において求められる人材像と専門性の動向②国または地域の産業振興の方向性③新技術の導入・普及に伴い新たに必要となる実務に関する知識、技術、技能④その他教育課程に関する事項を十分に把握、分析し、企業等の委員の意見を踏まえて教育課程(授業科目、授業内容、方法)を編成し、実践的かつ専門的な職業教育の質の向上を図る。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

1. この委員会は、高度自動車科の授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を審議し、次年度以降の教育課程編成案を作成する。

2. 前項において、まず企業等の委員からの意見を求め、学校側委員との意見交換を経て十分に相互理解を図るものとする。

3. 高度自動車科の教育課程編成案の作成においては、「業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役員」または「専攻分野に関する学会や学術機関等の有識者」から1名以上、「実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役員」から1名以上選任した委員の意見を踏まえるものとする。

4. 次年度の教育課程編成案の最終案は、学校側委員がとりまとめ校長の決裁を受けるものとする。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

2019年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
井場元 彰久	一般社団法人 兵庫県自動車整備振興会	2019年4月1日～2020年3月31日(1年)	①
金井 隆行	兵庫トヨタ自動車株式会社	2019年4月1日～2020年3月31日(1年)	③
平 勝治	神戸トヨペット株式会社	2019年4月1日～2020年3月31日(1年)	③
大塚 生介	専門学校トヨタ神戸自動車大学校	2019年4月1日～2020年3月31日(1年)	
鈴木 二郎	専門学校トヨタ神戸自動車大学校	2019年4月1日～2020年3月31日(1年)	
山口 裕行	専門学校トヨタ神戸自動車大学校	2019年4月1日～2020年3月31日(1年)	
杉原 徹	専門学校トヨタ神戸自動車大学校	2019年4月1日～2020年3月31日(1年)	
澤田 晃宏	専門学校トヨタ神戸自動車大学校	2019年4月1日～2020年3月31日(1年)	
長澤 哲也	専門学校トヨタ神戸自動車大学校	2019年4月1日～2020年3月31日(1年)	
谷川 嘉夫	専門学校トヨタ神戸自動車大学校	2019年4月1日～2020年3月31日(1年)	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役員(1企業や関係施設の役員は該当しません。)

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(開催日時)

第1回 2019年7月4日 13:00～15:30

第2回 2019年9月(予定)

第3回 2020年1月(予定)

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

①安全意識を高く持ち、就職後も事故を起こさない学生を育成するために、安全教育の骨子を策定、教育内容を充実。

②新技術への対応として、運転支援システム(TSS・ISC)に関する教育、エーミング作業を教育課程に取り入れ。

③企業を招いての研究発表会を4年間の集大成として実施。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

一種養成施設の一級自動車整備士養成課程では、整備工場(認証工場・指定整備工場)での「自動車の点検整備」「故障原因探求」「顧客対応などの総合診断」をインターンシップで実施(200時間以上)するよう定められている。これに基づき4年次に就職内定先を実習先としてインターンシップを実施する。但し、内定先に認証工場が無い場合は、別の企業で実施する。

【インターンシップの目的】

①学校で修得した知識・技術・技能や顧客対応を実践し、学校の授業と実際の現場との関連・違いを身をもって体験すること

②社会人意識及び職業意識の高揚を図ること

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

4年次前期に232時間のインターンシップを実施し、学校で修得した知識・技術・技能や顧客対応を実践。その中で社会人意識や職業意識の高揚に取り組んでいる。

【インターンシップの実施内容】自動車の点検整備、故障原因探究、顧客対応などの総合診断などとする

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
インターンシップ	技術教育・業務教育で修得した知識・技能を企業において実践(体験実習)し、実務と結びつける。サービスエンジニアとしての必要な素養を学び、個別課題に取り組み知識・技能を習得する。	兵庫トヨタ自動車株式会社 神戸トヨペット株式会社 トヨタカローラ兵庫株式会社 ネットトヨタ兵庫株式会社 ネットトヨタ神戸株式会社
		ネットトヨタゾナ神戸株式会社 大阪トヨタ自動車株式会社 大阪トヨペット株式会社 トヨタカローラ大阪株式会社 トヨタカローラ新大阪株式会社
		ネットトヨタヤサカ株式会社 トヨタカローラ滋賀株式会社 トヨタカローラ奈良株式会社 ネットトヨタ和歌山株式会社 鳥取トヨペット株式会社
		島根トヨペット株式会社 岡山トヨペット株式会社 広島トヨタ自動車株式会社 トヨタカローラ山口株式会社 徳島トヨタ自動車株式会社
		トヨタカローラ香川株式会社 愛媛トヨペット株式会社 ネットトヨタ愛媛株式会社 高知トヨペット株式会社 トヨタカローラ熊本株式会社
		大分トヨタ自動車株式会社 沖縄トヨタ自動車株式会社 兵庫ダイハツ販売株式会社 大阪ダイハツ販売株式会社 滋賀ダイハツ販売株式会社
		株式会社デンソーソリューション関西支社 株式会社デンソーソリューション関東支社 株式会社デンソーソリューション中国支社 大阪スバル株式会社 いすゞ自動車近畿株式会社
		株式会社ヤナセ関西営業本部 フォーシーズンズ株式会社

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

学校は、教育の目的及び教育目標を達成するために、教員の能力向上に努めるものとし、「教員研修規則」を定め、毎年度計画的に教員研修を実施する。

研修は、企業等との積極的な連携により①専攻分野における実務に関する知識・技術・技能、②授業力や指導力を修得・向上することを目的として実施し、より実践的な職業教育の質の向上に資するものとする。

なお、各々の教員が受講する研修は、教員の業務経験や能力、担当する授業科目や授業以外の担当業務に応じて決定するものとする。

(2) 研修等の実績				
① 専攻分野における実務に関する研修等				
対象	内容	人数	期間	連携内容
授業担当教員	自動車業界の動向とエーミング基礎知識セミナー	1	2018年6月26日	兵庫県自動車青年会議所主催の研修
授業担当教員	新技術・車両診断研修会	1	2018年8月7日～10日	全国自動車大学校・整備専門学校主催の研修
全教員	コネクティッド技術に関する研修	16	2018年8月20日	トヨタ新大阪販売ホールディングスに依頼
② 指導力の修得・向上のための研修等				
対象	内容	人数	期間	連携内容
経験3年程度の教員	教職員夏季研修会	1	2018年8月1日～3日	全国自動車大学校・整備専門学校主催の研修
全教員	教員教養講座	16	2018年8月2、3、6、7日	社団法人兵庫県専修学校各種学校連合会主催の講習会
(3) 研修等の計画				
① 専攻分野における実務に関する研修等				
対象	内容	人数	期間	連携内容
授業担当教員	トヨタ自動車サービス技術研修(多重通信)	1	2019年6月11日～13日	トヨタ自動車株式会社主催の研修
授業担当教員	保安基準研修会	1	未定	兵庫県整備振興会主催の研修
経験3年程度の教員	トヨタ販売店サービス業務研修	1	2019年10月～12月(3か月)	トヨタ販売店の店舗にて実施
② 指導力の修得・向上のための研修等				
対象	内容	人数	期間	連携内容
全教員	教員教養講座	16	2019年8月1、2、5、6日	社団法人兵庫県専修学校各種学校連合会主催の講習会
経験5～10年程度の教員	中堅教員研修カリキュラム	1	未定	一般社団法人職業教育・キャリア教育財団主催の研修
4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。」				
(1) 学校関係者評価の基本方針				
トヨタ自動車ならびに就職先であるトヨタ販売会社、卒業生評議委員等のステークスホルダーを含む学校関係者評価委員会を設置して、実践的な職業教育を目的とした教育活動や学校運営について、社会のニーズを踏まえた目標設定ならびに、その達成状況や達成に向けた取り組みの適切さについて評価を受ける。さらに結果を公表することで社会への説明責任を果たすとともに、企業等の学校関係者の理解を深め、教育活動への連携・協力を得て学校としての組織的・継続的な改善を図るものとする。				
(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応				
ガイドラインの評価項目		学校が設定する評価項目		
(1) 教育理念・目標		理念・目的・育人人材像		
(2) 学校運営		運営方針、事業計画、組織運営、人事・給与制度、意思決定システム、情報システム、目標の設定		
(3) 教育活動		教育方法・評価等、成績評価等、資格・免許の取得指導、教員・教員組織		
(4) 学修成果		就職率、資格・免許の取得率、卒業生の社会的評価		
(5) 学生支援		就職等進路、中途退学への対応、学生相談、学生生活、保護者との連携、卒業生・社会人		
(6) 教育環境		施設・設備等、学外実習・インターンシップ等、防災・安全管理		
(7) 学生の受入れ募集		学生募集活動、入学選考、学納金		
(8) 財務		財務基盤、予算・収支計画、監査、財務情報公開		
(9) 法令等の遵守		関係法令・設置基準等の遵守、個人情報保護、学校評価、教育情報の公開		
(10) 社会貢献・地域貢献		社会貢献、地域貢献、ボランティア活動		
(11) 国際交流				
※(10)及び(11)については任意記載。				
(3) 学校関係者評価結果の活用状況				
①外部診断機(GTS)の教育レベル向上。②4年次の研究演習授業の発表は外部の方(就職先企業等)も招いて実施。 ③国家試験不合格者に対するの継続支援。④就職活動の前知識としてトヨタ4チャンネルの特徴を理解させるよう改善。 ⑤寮生のバイク持込許可基準を見直し。				
(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿				
2019年4月1日現在				
名前	所属	任期	種別	
松野 来	トヨタ自動車株式会社国内サービス部	2019年4月1日～2020年3月31日(1年)	企業	
三宅 敏文	兵庫トヨタ自動車株式会社総務部	2019年4月1日～2020年3月31日(1年)	企業	
平 勝治	神戸トヨペット株式会社営業本部	2019年4月1日～2020年3月31日(1年)	企業	
原田 忠	トヨタ新大阪販売ホールディングス株式会社営業本部	2019年4月1日～2020年3月31日(1年)	企業・卒業生	
中川 幸士	ネットトヨタ兵庫株式会社サービス営業部	2019年4月1日～2020年3月31日(1年)	企業・卒業生	
※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。				
(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期				
(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())				
URL: http://www.toyota-kobe.ac.jp/outline/pdf/5.pdf				
(公表時期)				
2019年7月31日				

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

「専門学校における情報提供等への取り組みに関するガイドライン」を踏まえ、以下のことを目的として、教育活動及び学校運営に関する情報を積極的に公開する。

- ① 企業等の学校関係者の理解を深め、当校の実践的職業教育活動への連携・協力を得る。
 - ② 公的な教育機関として、情報公開により社会に対する説明責任を果たし、社会的な理解・評価を促進して教育の質のさらなる向上につなげる。
 - ③ 入学希望者とその保護者に適切な情報を提供し、能力・適性に応じた適切な進路選択に資するものとする。
- なお、情報公開にあたっては、個人情報の取り扱いに十分留意するものとする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	「学校概要・沿革」、「教育理念」
(2) 各学科等の教育	「学科紹介(自動車整備科・高度自動車科)カリキュラム、設備・教材」、「就職・進路(就職実績)」、「情報公開(授業方法・内容及び年間計画・時間割)(入学整数・在学生数)(学習の成果として取得を目指す資格・検定)」
(3) 教職員	「情報公開(教職員数・組織図・教員の専門性)」
(4) キャリア教育・実践的職業教育	「就職・進路(就職支援)」
(5) 様々な教育活動・教育環境	「情報公開(学校行事への取り組み状況)」「キャンパス・寮情報(クラブ紹介)」
(6) 学生の生活支援	「情報公開(学生の生活支援への取り組み)」
(7) 学生納付金・修学支援	「学生募集要項(学生募集要項:入学金・学費等)(奨学金)」
(8) 学校の財務	「情報公開(決算書)」
(9) 学校評価	「情報公開(自己点検自己評価・学校関係者評価)」
(10) 国際連携の状況	「学生募集要項(学生募集要項:外国人留学生の方へ)」
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

URL:<http://www.toyota-kobe.ac.jp>

授業科目等の概要

(工業専門課程 高度自動車科) 2019年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			導入	自動車の取扱いや基本的な構造、工具・機器の名称・取扱い、自動車構造の基礎知識を修得する。	1前	49		△	△	○	○		○		
○			学科 エンジンⅠ、Ⅱ	エンジン本体、燃料装置、潤滑装置、冷却装置について、役割、構造・作動を理解する。	1前	49		○			○		○		
○			学科 電気装置Ⅰ、Ⅱ	電気の基礎、電気回路について理解する。バッテリー、灯火装置、始動装置、充電装置、ワイパーについて、役割、構造・作動を理解する。	1前	49		○			○		○		
○			学科 シャシⅠ、Ⅱ	タイヤ・ホイール、ステアリング装置、ブレーキ装置、マニュアルトランスミッションについて、役割、構造・作動を理解する。	1前	47		○			○		○		
○			学科 基礎工学Ⅰ、Ⅱ	単位換算、トルク、圧力、速度、ギヤ比、レバー比、軸重の計算について理解する。	1前	28		○			○		○		
○			実習 エンジンⅠ、Ⅱ	実部品の分解・構造研究・組み付けを通して、エンジン本体、燃料・潤滑・冷却の各装置の役割、構造・作動を理解するとともに工具や計測器の使い方を修得する。	1前	88				○	○		○		
○			実習 電気装置Ⅰ、Ⅱ	サーキットテスタを作成し、取扱い、測定方法を修得するとともに電気回路を理解する。バッテリー交換、バルブ交換、ワイパー交換、ベルト交換等のメンテナンス作業を修得する。	1前	95				○	○		○		

○			実習 シャシⅠ、Ⅱ	実部品の分解・構造研究・組み付けを通して、ステアリング装置、ブレーキ装置、トランスミッションの役割、構造・作動を理解する。 また、ジャッキ、リフト等の整備機器取扱いを修得する。	1 前	88					○	○	○				
○			教養 社会人入門Ⅰ	自動車業界や自動車の環境問題等についての基礎知識を修得する。 社会人としてのマナー等を修得する。	1 前	12					○	○	○	○			
○			学科 エンジンⅢ、 Ⅳ	動弁機構や点火装置、吸・排気装置、排ガス浄化装置について、役割、構造・作動を理解する。	1 後	28				○		○	○				
○			学科 電気装置Ⅲ、 Ⅳ	半導体、バッテリー、始動装置、充電装置、ワイパー装置、メーターについて、役割、構造・作動、電気の流れや制御を理解する。	1 後	21				○		○	○				
○			学科 シャシⅢ、Ⅳ	サスペンション、ホイールアライメント、クラッチ・ディファレンシャル、プロペラシャフト・ドライブシャフトについて、役割、構造・作動を理解する。	1 後	47				○		○	○				
○			学科 基礎工学Ⅲ、 Ⅳ	軸重、排気量、加速度、出力、仕事率、圧縮比の計算について理解する。	1 後	38				○		○	○				
○			実習 エンジンⅢ、 Ⅳ	実部品の分解・構造研究・組み付けを通して、動弁機構や点火装置、吸・排気装置、排ガス浄化装置の役割、構造・作動を理解するとともに工具や整備機器の使い方を修得する。	1 後	97						○	○	○			
○			実習 電気装置Ⅲ、 Ⅳ	配線図集の使い方を学び、電気装置の故障原因探究により、各装置の回路、電気の流れ、作動を理解する。	1 後	126						○	○	○			
○			実習 シャシⅢ、Ⅳ	実部品の分解・構造研究・組み付けを通して、サスペンション、ドライブシャフト、ディファレンシャルの役割、構造・作動を理解する。	1 後	87						○	○	○			

○		教養 社会人入門Ⅱ	就職活動に備え、自己分析、会社訪問演習、面接演習等を実施する。	1 後	32			○	○	○	○		
○		予習復習授業	1年次修得した事項の復習項目と、2年次に向けた基礎理論内容の理解。	1 後	79		△	△	○	○	○		
○		教養 社会人入門Ⅱ	漢字能力検定準2級取得に向けた対策講座を実施する。 PC操作の基礎スキルを習得する。	1 後	104			○	○	○			
○		総合復習	トヨタ技能検定4級合格レベルを目標に、整備技能習熟および技術理解を行う。	1 後	36				○	○	○		
○		ホームルーム・行事	ホームルームは、担任クラスの出席確認、連絡事項、スピーチ練習などの学生指導を行う。 行事は、入学式、オリエンテーション、訓話、合宿、健康診断、献血、防災訓練、球技大会、学園祭、終業式を行う。	1 通	42			○	○	○	○		○
○		学科 エンジンⅤ、 Ⅵ	ジーゼルエンジン本体、燃料装置（ポンプ、インジェクションノズル）予熱装置について、役割、構造・作動を理解する。	2 前	27			○		○	○		
○		学科 電気装置Ⅴ、 Ⅵ	半導体回路、スキャンツール、ハイブリッド車、マニュアルエアコンについて理解する。 ガソリンエンジンの電子制御式燃料噴射装置の制御を理解する。	2 前	37			○		○	○		
○		学科 シャシⅤ、Ⅵ	大型シャシ（制動装置、懸架装置等）について、役割、構造・作動を理解する。 オートマチックトランスミッションについて、役割、構造・作動を理解する。	2 前	55			○		○	○		
○		学科 自動車法規 Ⅰ、Ⅱ	道路運送車両の保安基準について理解する。	2 前	18			○		○	○		

○		学科 自動車検査Ⅰ	道路運送車両法について理解する。	2 後	10		○			○			○		
○		学科 自動車工学Ⅲ	エンジン性能曲線、走行性能曲線、トルク コンバータ性能曲線について理解する。 工学の各計算問題について復習する。	2 後	11		○			○			○		
○		学科 トヨタ技術	トヨタサービス技術検定3級取得に向けた 点検・整備作業およびそれらの知識を復習 する。	2 後	12		○			○			○		
○		実習 エンジンⅦ	実部品の分解・構造研究・組み付けを通し て、列型ポンプ、過給機、LPG・ロータ リーエンジンの役割、構造・作動を理解す る。	2 後	36					○	○		○		
○		実習 電気装置Ⅶ	オートエアコンの操作・制御、カーナビ ゲーションの操作、エアバッグの構成部品 等を知る。 エンジン電子制御を理解し、故障原因探究 の進め方を修得する。	2 後	99					○	○		○		
○		実習 シャシⅦ	実部品の分解・構造研究・組み付けを通し て、パワーステアリングの役割、構造・作 動を理解する。 実車を用い、AT車やアライメントの点 検・調整作業を修得する。	2 後	67					○	○		○		
○		実習 総合Ⅶ	車検点検整備機器の取り扱いおよび24か 月定期点検を修得する。	2 後	31					○	○		○		
○		教養 社会人入門Ⅳ	お客様対応業務やサービス業務システムの 使い方、保証制度などを修得する。	2 後	11					○			○		
○		実習 トヨタ技術	トヨタサービス技術検定3級取得に向けた 点検・整備作業およびそれらの知識を復習 する。	2 後	60					○	○		○		

○		学科、教養 総合復習Ⅰ	二級国家試験に出題される各装置について 分野別に総復習する。	2 後	102		○		○		○				
○		学科、教養 総合復習Ⅱ	二級国家試験に出題される各装置について 過去問題を解答しながら総復習する。	2 後	112		○		○		○				
○		教養	卒業生の話を聞き、キャリアプランを理解 する。 文章能力検定準2級取得に向けた対策講座 を実施する。	2 通	48			○		○		○			○
○		ホームルー ム・行事	ホームルームは、担任クラスの出席確認、 連絡事項、スピーチ練習などの学生指導を 行う。 行事は、始業式、オリエンテーション、健 康診断、献血、防災訓練、球技大会、学園 祭、終業式を行う。	2 通	85			○		○	△	○			△
○		機器取扱い	3年次授業で使用する工具・計測機器の使 用方法を学習し、現象を数値的に捉える力 を身につける。	3 前	14.4		○		○	○		○			
○		自動車原動機 工学Ⅰ	原動機機関について、二級国家試験に出題 される技術および制御の理解を深める。	3 前	16.2		○			○		○			
○		自動車原動機 工学Ⅱ	原動機機関について、二級及び一級国家試 験に出題される技術および制御の理解を深 める。	3 前	37.8		○			○		○			
○		自動車シャシ 工学	駆動・走行・制動装置について、技術及び 制御の理解を深める。	3 前	34.2		○			○		○			
○		顧客対応Ⅰ	ビジネス基礎教養から顧客対応の基本まで 幅広く修得する。	3 前	50.4		○	○		○		○			

○			エステイメーション	トヨタサービスエステイメーション3級の資格取得を目標に、事故見積もり・板金・塗装における基礎知識を修得する。	3前	36		○	○	○	○	○		
○			経営 I	トヨタサービスの考え方を理解する。ケーススタディーから分析を行い、経営戦略の考え方について理解する。	3前	23.4		○	○	○	○			
○			マーケティング I	フリーマーケット・ミステリーショッパーの実体験を通じて、マーケティングを理解する。	3通	41.4		○	○	○	○			
○			高度技術実習	原動機工学やシャシ工学に関連する実習を実施また、測定データから制御内容を理解、不具合診断をを行う	3前	46.8				○	○	○		
○			車両性能研究	車両における「走る」「曲がる」「止まる」について、現象を数値的に捉えメカニズムを理解する。	3前	137				○	○	○		
○			電子制御システム	「エンジンシステム制御」や「ボデー電装」について、現象を数値的に捉えメカニズムを理解する。	3前	75.6				○	○	○		
○			新技術実習 I	ハイブリッドシステムの構造・作動・制御を理解する。 振動騒音の原理原則を理解し、現象を定量的に捉える。	3前	75.6				○	○	○		
○			車両通信工学	車両に採用されている通信技術について、基本原理を理解する。	3後	32.4		○		○	○			
○			自動車新技術 I	従来技術からの変遷を軸に原理原則の理解を深め、これから採用される新技術を理解する。	3後	39.6		○		○	○			

○		環境・安全	安全管理と災害防止の重要性について理解する。 自動車整備士としての環境保全への取り組み事項を理解する。	3 後	16.2		○		○		○							
○		顧客対応Ⅱ	サービス対応業務について、実践的なロールプレイングを実施し、対応力を向上する。	3 後	32.4		○	○		○		○						
○		自動車新技術Ⅱ	3年次に学んだ新技術について、総復習を行い、知識の底上げを図る。	3 後	25.2		○			○		○						
○		経営Ⅱ	自動車販売会社をはじめ、各企業のマーケティング戦略を分析することで、経営戦略の考え方を理解する。	3 後	23.4		○	○		○		○						
○		新技術実習Ⅱ	振動騒音・新技術に関連する実習内容を実施	3 後	46.8					○	○		○					
○		新機構研究	新機構について、基礎技術からの変遷を踏まえ、システム及び制御を理解する。	3 後	108					○	○		○					
○		車両研究Ⅰ	トヨタ検定2級取得に向けての復習と予習を行い整備技術、知識を修得する。	3 後	151					○	○		○					
○		車両研究Ⅱ	新機構全般について、基礎技術からの変遷を踏まえ、システム及び制御を理解する。	3 後	70.2					○	○		○					
○		ホームルーム・行事	ホームルームは、担任クラスの出席確認、連絡事項、スピーチ練習などの学生指導を行う。 行事は、オリエンテーション、健康診断、防災訓練、献血、学園祭を行う。	3 通	117					○		○	○	○				

○		車両点検整備	定期点検整備項目における点検手順・作業要領および作業の必要性を修得する。	4前	84.6					○	○		○		
○		高度故障診断Ⅰ	故障診断を通じて、一級教科書に記載されている故障診断分野及びハイブリッドについて理解する。	4前	93.6					○	○		○		
○		総合演習Ⅰ	一級小型自動車整備士資格を取得するために、「エンジン電子制御装置」に記載された内容を理解する。	4前	48.6					○	○		○		
○		インターンシップ	技術教育・業務教育で修得した知識・技能を体験実習において実践し実務と結びつける。 サービスエンジニアとしての必要な素養を学び、個別課題に取り組み知識・技能を修得する。	4前	239					○		○		○	○
○		マネジメント	チームマネジメントの基礎を理解する。	4通	16.2					○		○		○	
○		マーケティングⅡ	経営者からの講義により、マーケティングの実態・戦略的な手法を理解する。 サービス現場におけるCS向上への取り組みを調査し、その実態を理解する。	4通	21.6				○	○		○		○	○
○		研究演習	1つのテーマを長期にわたり研究し、自動車に関する興味や知識、技術をさらに深め、視野を広げる。 論文作成を通じて、論理的思考力、文章力を修得する。	4後	144					○	○		○		
○		トヨタ技術	トヨタサービス技術検定2級資格を取得する。	4後	106					○	○		○		○
○		高度故障診断Ⅱ	一級教科書に記載されている故障診断分野の理解を通じ、現象に対して論理的に系統立てた診断力を修得する。	4後	64.8					○	○		○		

○		総合演習Ⅱ	一級小型自動車整備士資格を取得するために、「自動車新技術」「環境安全」「法令」に記載された内容を理解する。	4後	122					○	○	○		
○		自動車概論Ⅰ	一級小型自動車整備士資格を取得するために、1級教科書に記載された内容を理解する。 ロールプレイングを中心に、口述試験に必要な知識、話法を修得する。	4後	160					○	○	○		
○		自動車概論Ⅱ	一級小型自動車整備士資格を取得するために、1級教科書に記載された内容を理解する。	4後	182					○	○	○		
○		海外マーケティング	世界最大の自動車部品見本市であるアメリカSEMAショーを見学することにより、マーケティングに対する幅広い知識を修得する。	4後	50.4					○		○	○	○
○		ホームルーム・行事	ホームルームは、担任クラスの出席確認、連絡事項、スピーチ練習などの学生指導を行う。 行事は、健康診断、防災訓練、献血、学園祭、卒業式リハーサル、卒業式を行う。	4通	46.8					○	○	○		
合計					103	科目	4870単位時間(単位)

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
◆進級 各年次毎に、定められた全科目の修得試験に合格しており、各年次における補講を含めない正規授業への出席率は、80%以上であること ◆卒業 4年次の修了が認められ、学科・実習それぞれ補講を含めた出席時間数が一種自動車整備士養成施設指定基準の定めによる教育時間数を満足していること	1学年の学期区分	2期	
	1学期の授業期間	20週	

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。